



社会福祉法人 京都いのちの電話 ニュースレター

第126号

相談電話

075-864-4343

24時間 年中無休

ナビダイヤル 0570-783-556

障がい者福祉施設での実践をふりかえって ～ 共に在るということ ～

佐藤 剛 社会福祉法人京都いのちの電話 監事・社会福祉法人同胞の家 元園長



〈はじめに〉

私は知的障がい者施設同胞の家の創設時から施設長として働かせていただきました。施設で幾多の試練にも遭いましたが、施設で生きる醍醐味も数々と味わわせていただきました。今日はそのなかから格別な印象をもった出来事を話させていただきます。

〈障がい者施設の開設の経過〉

同胞の家は1990年6月1日に京都府より「知的障害者授産施設（通所）」として設置認可を受けました。施設の開設が必要だった理由として、地域に同種の施設がなく、議会にも請願が提出されていること、また支援学校の卒業生による待機者をかかえる状況にあり、施設の建設は急を要するというものであります。

さて、建設用地には公立幼稚園の跡地が用意され、またその隣接地には公立のふれあいセンターが設置されているという、さらに閑静な住宅地にも位置して障がい者の社会参加と社会自立に寄与できるという格好の立地条件の建設計画が示されました。ここに新しい時代の要請に応えられる障がい福祉への展望が開けるとの機運が高まりました。

〈施設の開設協議の行方〉

しかし、一方で、こんな予想を越える事態が起きました。地域の地域住民にとって施設開設は決して歓迎されるものではありませんでした。地元住民（5町内会、約260世帯）による施設の建設に反対する運動が起こったのであります。施設建設協議は難航し、19回にも及び、地元との協議は夜を徹して行なわれたこともありました。地域住民は次のような声を上げて施設の建設反対を迫りました。

- なんで、こんな静かな住宅地に、何をするか分からない、物騒な障がい者の施設を建てないかんのですか。
- もし、そんな施設ができたら、この地域の町内の風紀が乱れるではないか。
- 施設ができれば、せっかく苦勞して購入した土地や建物の値打ちが下がってしまうが、どう責任を取ってくれるつもりか。
- 住民は何時も、何が起こるか分からない不安と危険に生

涯怯えなければならない。何かことが起こったらどうしてくれるつもりか。

- 自分たちの子どものためにはこの地域は悪い環境となり、子どもを安心して外で遊ばせられなくなる。
- 施設を作ることを認めたら、子々孫々までこのことで苦しめなければならない。
- 建てるなら、もっとほかに建てろ。市役所のなかにも、園長の家にも建てろ。
- 施設に通う道を通行禁止にするから、施設で別に安全のために道を設けてそこを利用するようにせよ。等々。

多くの苦情が出され、障がいのある人を受け入れてくださらない地域の分厚い壁に突き当たりました。

ところが、その後、少し期間を置きました建設協議の住民集会の最後の集会（第19回）となった夜のことでした。私は、施設の開設が聞き入れられなければ職を辞する覚悟でもありました。その夜、次のようなことを話したことをはっきり記憶しています。

「きのうまでの私でしたら、皆さんと同じように考え、思い、言ったかもしれません。私自身も障がい者の方を積極的に受け入れてきた経験もありませんから。また、自分は障がい者を差別していなかったと言えば嘘をつくことになります。私自身は今日まで障がい者の世界だけは避けて、逃げてきた張本人ですから。この施設ができて、今後皆様にご迷惑をかけないとは約束できません。しかし、こんな不十分な私が運営の責任にあたらうとしています。お願いです。どうか皆さんのお力を貸してください。私は生命をかけて仕事にあたりますから」と言いました。

続けて最後に、私は障がい者の社会復帰は簡単なことではないことを訴え、そのための近道は皆さんの方から障がい者に復帰（近づく）してくださるしかないことをお頼みしました。

〈施設の完成への運び〉

最後の勇気を振り絞った覚悟を決めた発言でした。その後、会場には実に長い沈黙が続きました。その時、思いがけないことが会場に起こりました。今までの集会になかった、こん

(1面から続き)

なことは初めてでしたが拍手が起こりました。そして、その拍手は徐々に大きくなり、遂に会場全体に及ぶほどになりました。次々と手が挙がり、一人一人は施設の開設反対から、施設の開設賛成へと発言が変わってしまったのです。この時は驚きを隠せなかったです。今までとは打って変わって、会場はたちまち和やかな空気に一転して別世界の様相でした。まるで、皆さんが、今度は味方についてくださったとの実感を抱きました。

もうあの激しい話しのやり取りはどこへやら、その後も、もう今までの話し合いの内容の顛末を追求する人は誰一人いません。その後進められていた施設の工事は完了し、同胞の家の建物は完成の運びに至っていくのであります。私は思います。遂に障がいのある人の存在が、地域の人々の意識を変えたのです。同胞の家ができることで地域の人々の考え方が変わったのです。施設開設から地域の住民の心配事は1件も発生していません。それよりも地域の人々は施設に対しても協力的で過去のしこりもなく、地域の一員として施設を支えてくださり、利用者の方々への支援を惜しみません。

〈施設の完成後の変貌〉

同胞の家の今日までをふりかえりますとき、その出発は険しいものでした。何をさておいて、私には、障がいのある利用者の存在が、人々を、地域を変えたことが思い起こされます。住民が施設の誕生に反対を迫ったときも、地域の分厚い壁を感じた時も、地域社会が障がい者に復帰してくださることを願っ

たときも、そこにはいつも今を生きる障がいのある利用者が毎日を体裁もつけず、おべんちゃらも言わず、格好もつけず、誇らず、ありのままの姿でがむしゃらに生きる姿を示し続けてくださったことがあったからこそ、人が、地域が、社会が価値あることを愛する努力へと目を開かれたと考えます。

私たちの心が耕されて、文化が生まれ、福祉が構築される。人が自分を基盤とするものから、共通の基盤に立つものへと変えられる。障がいのある人がいて地域が掘り起こされ、障がい者が存在できる。この事業が、人を温め、家族を温め、地域を温めた。

この時代、人は共に貧しくなる勇気が必要です。これまで「共存共栄」を言い続けてきました。しかし、今は人の欲望のままに進む事態のまえに、人の欲望が抑えられ、互いに貧しくなる「共存共貧」の社会建設が求められています。弱い人の前に立って恐れおののくことを示されます。今日も私たちはその入り口に立っています。

〈おわりに〉

私には若い日から施設で働くことが夢でした。そこでの働きは苦闘の連続でした。この施設の開設時の戦いは、仕事を始める前でもあり深刻でした。しかし、障がいのある人が、良識ある住民が助けてくれました。ふりかえる時、いつもすべてまわりの人が助けてくれる世界を実感しました。社会福祉施設は価値あるものを発掘する場所です。

活動報告

公開演会『いのちと向き合うために～私たちにできること～』

(島田妙子氏)

10月13日(祝月)ウイングス京都にて開催しました。ご自身の体験に基づくお話しとアンガーマネジメントについて、多くの方々が耳を傾けました。

チャリティーコンサート『X'masいのち奏でるコンサート』

12月14日(日)京都府立府民ホールアルティにて開催し、たくさんの方にご来場いただきました。フルートとハーブの調べにオーケストラが融合し、繊細さと迫力のある音楽に聞き入りました。

相談員全体研修『京都いのちの電話の歩みと未来』

1月12日(祝月)に開催しました。京都いのちの電話43年の歩みをふり返り、思い出を語り合い、未来へ向けての気持ちを伝え合いました。



『X'masいのち奏でるコンサート』



『公開講演会』



『京都いのちの電話の歩みと未来』

Table with 2 columns and multiple rows listing dates and activities such as '10月 3日(金) 第1回部会連絡会', '11月 1日(土) 第2回相談員全体研修', and '2026年 1月 12日(祝月) 相談員全体研修'.

事務局日誌

コラム

聴く 考える 思う

精神科医 北村 隆人

東洞院心理療法オフィス / 太子道診療所精神神経科

「さようなら」という小さな儀式

インターネットの発達により、私たちは以前の生活習慣を失いつつある。たとえばメールの普及によって、年賀状の数はめっきり減った。また、知人が遠くへ移住したとしても、昔ほど「遠くに行ってしまった」と感じなくなっている。

このように、ネットやSNSの普及によって、「またいつでも連絡できる」という感覚が当たり前になったことが、一つの変化をもたらしているように感じられる。それは、別れの際に「またね」という言葉が多くなり、「さようなら」という言葉が次第に用いられなくなりつつあるという変化だ。

この「さようなら」について、倫理学者の竹内整一はこう書いている。

……「さようなら」とは、本来「然らば」「さようであるならば」ということで、「前に述べられた事柄を受けて、次に新しい行動・判断を起こそうとするときに使う」とされた、もともと接続の言葉です。

(竹内整一著(2009)『日本人はなぜ「さようなら」と別れるのか』筑摩書房)

この理解から浮かび上がるのは、「さようなら」という言葉を口にするの意味である。それは単なる別れの挨拶にとどまらない。そこまでに起こった出来事を一度静かに受け止め、「現実がそうであるならば」と確認し、次の道へと歩み出すための「小さな儀式」としての意味を持っている。

その意味は、親しい人との死別の際に私たちが「さようなら」とつぶやくとき、より鮮明になる。その言葉は、相手との関係が確かに存在していたという事実と、それがここで終わりを迎えるという現実の両方を、静かに胸に刻みつける働きを持つ。痛みを伴いながらも、その言葉を口にするだけで、私たちはようやく次の一步を踏み出す準備を整えていくのだろう。

電話相談の現場で耳にするのは、言葉にしきれない別れの痛みである。大切な人との死別だけでなく、関係の断絶、仕事や役割の喪失、自分自身の心との訣別……。しかしその多くは、「さようなら」と言えないまま、あるいは言わないまま、静かに過ぎ去ってしまう。言葉にしなかった別れは、心のどこかに殿のように沈み込み、のちに息苦しさや孤独感となって顔を出すことがある。

だからこそ、「さようなら」という言葉が本来持っていた意味を、私たちはもう一度思い起こしたい。起こってしまった出来事をなかつたことにせず、「そうであるならば」と一度受け止め、振り返る。その痛みを抱えつつ、なおも続く自らの人生を歩み続ける。その静かな営みこそが、人の心を支える大切な力となる。

いのちの電話で交わされる一つひとつの対話が、誰かの中で言いそびれていた「さようなら」に寄り添う場となること。それは、孤独の淵にある心が再び自身の人生を歩み始めるための、小さな、しかし大切な一歩になっていくはずだ。



受信件数

2025年10月1日～ 2026年1月31日	6,145件
開局以来 (2026年1月31日現在)	908,472件

自殺予防 いのちの電話
なやみ ところ
☎ 0120-783-556
【時間内無料です】
毎日 16:00～21:00
毎月10日 8:00～翌日8:00



終わりに

長い話のあと
あなたは
なにかを 気づいたようだ
すると
あなたは急に
話を終えたくなくて
わたしは
あなたの気持ちのおもむくまま
聞いていたが
終わりを感じて
話を本当に聞けたのか
と考えながら
あなたの終わりのことばを待つ
終わったあと
ゆっくり呼吸をして
この時間は
どんなに大切だったのか と考える

(T)

いのちの電話の相談員が足りません。

いまこそ、あなたの力と大切な時間を
私たちの活動に分けて下さいませんか。

2026年度 第49期

ボランティア電話相談員養成講座 受講生を募集しています。

応募資格：20～68歳の方(職業・経験不問 ころざしのある方)
養成期間：1年次 2026年5月16日(土)～2027年3月
 2年次 2027年4月～2028年3月
講座内容：1年次 講義・グループ研修・実習
 2年次 インターン実習および各種研修
 ＊研修は土曜日が中心です
受講料：1年次 前期26,000円・後期15,000円
 →13,000円 →7,500円
 2年次 10,000円 ＊2025年度から京都市の助成により
 →5,000円 受講料が半額となっています。
場所：京都市内(公共交通機関利用可能・受講決定後にお知らせします)
募集期間：2026年4月15日(水)必着
 ＊募集要項、申込書はHPからもダウンロードできます。



＊お申し込み、お問い合わせは、下記事務局、
またはホームページをご覧ください。

2026年度 第49期

ボランティア電話相談員養成講座 説明会

養成講座の説明と、皆さまの質問にお答えします。

2026年3月21日(土) 14:00～16:00(受付開始13:30)

会場：ハートピア京都(市営地下鉄 丸太町駅 徒歩5分)

入場無料

要申込み

資金ボランティアのお願い

京都いのちの電話の活動は、みなさまからのご支援により運営されております。
あなたも京都いのちの電話を支えるおひとりになっていただけませんか？

- ・千人会費は(個人)年間1万円、(法人・団体)1万円・5万円・10万円です。
 - ・自由な金額をご賛助いただくこともできます。
 - ・遺言・遺産のご寄付も承ります。
- ＊会費と寄付は税法上優遇措置が受けられます。
＊銀行振込の場合、ご住所をお知らせください。領収書をお送りいたします。

振込先は以下のいずれかになります。
 郵便振替：01050-0-44782
 銀行振込：三菱UFJ銀行京都支店 普通0299707
 京都銀行帷子の辻支店 普通130302
 □座名：社会福祉法人 京都いのちの電話

盲ろう者で初の大学教授になった福島智さん。9歳で視力、18歳で聴力を失い、宇宙空間にただ一人投げ込まれたように感じたが、お母さんが考案した指文字で会話できるようになった。代表作、『ぼくの命は言葉とともにある』。(I)

子ども教室で将棋を教えて早6年。1月に引き継いだ教室の最初の指導対局で、終了時刻が来たのでパパッと指して男の子を負かしたら、何やら呟いている。「前の先生は・・・」。「ん？前の先生は？」と尋ねると、「(先生は)前の先生より大人げない」と…。前の先生はもっと優しくかったと。その瞬間、68年の人生を振り返って反省した。(K)

社会福祉法人 京都いのちの電話

事務局：〒604-8891 京都中京郵便局私書箱 63号
 TEL. 075-864-1133 FAX. 075-864-1134
 URL. <https://kyoto-lifeline.com/>
 (9:30～17:30日・祝日休)

発行人：安保 千秋

編集：京都いのちの電話 広報チーム